

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-053562
 (43)Date of publication of application : 19.02.2002

(51)Int.CI. C07D251/46
 // C07B 61/00

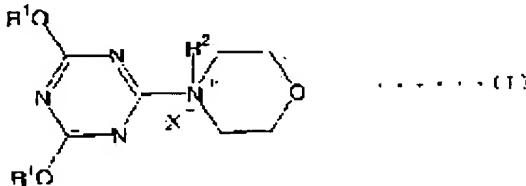
(21)Application number : 2000-243558 (71)Applicant : TOKUYAMA CORP
 (22)Date of filing : 11.08.2000 (72)Inventor : HIRANO NAOKI
 SAIJO MASAKO

(54) QUATERNARY AMMONIUM SALT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a quaternary ammonium salt with high stability as a condensation agent usable in producing an amide compound from a carboxylic acid compound and an amine compound, or ester compound from a carboxylic acid compound and an alcohol compound.

SOLUTION: This quaternary ammonium salt is shown by the general formula (I), wherein, R1 is a 1-4C alkyl or 6-8C aryl; R2 is a 1-4C alkyl; and X is a halogen atom, e.g. 4-(4,6-dimethoxy-1,3,5-triazin-2-yl)-4-methylmorpholinium chloride <1 mass% in triazine compound content which is obtained by reaction between a triazine compound such as 2-chloro-4,6-dimethoxy-1,3,5-triazine and a morpholine compound such as 4-methylmorpholine in the presence of water or an alcohol at 0.1-10 mol per mol of the triazine compound in an organic solvent other than the alcohol followed by removing the organic solvent and the water or alcohol out of the system.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 17.09.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-243558

(P2000-243558A)

(43)公開日 平成12年9月8日(2000.9.8)

(51) Int.Cl.⁷

H 05 B 33/06
G 09 F 9/30
H 05 B 33/10
33/14
33/26

識別記号

3 4 7

F I

H 05 B 33/06
G 09 F 9/30
H 05 B 33/10
33/14
33/26

テマコト(参考)

3 K 0 0 7
3 4 7 A 5 C 0 9 4
A
Z

審査請求 未請求 請求項の数15 O L (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平11-37693

(22)出願日

平成11年2月16日(1999.2.16)

(71)出願人 000221926

東北バイオニア株式会社

山形県天童市大字久野本字日光1105番地

(72)発明者 永山 健一

山形県天童市大字久野本字日光1105番地

東北バイオニア株式会社内

(74)代理人 100079119

弁理士 藤村 元彦

F ターム(参考) 3K007 AB00 AB18 BA06 CA01 CB01

CC00 CC05 DA00

5C094 AA37 AA43 AA60 BA27 CA19

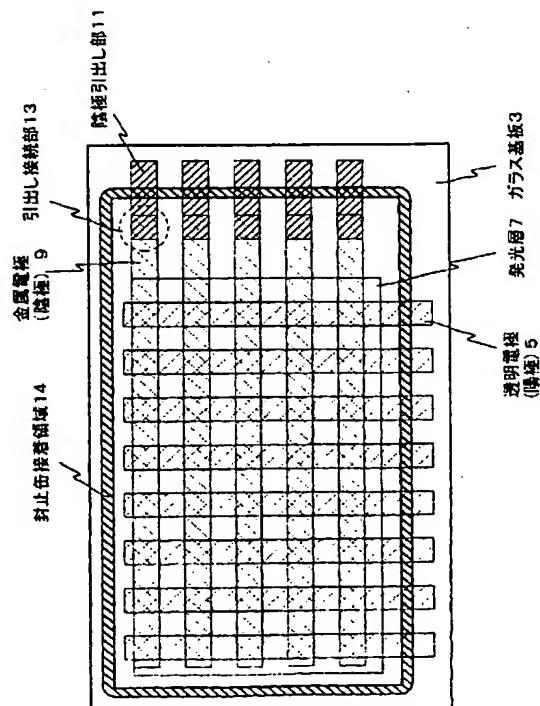
DB03 EA05 EA10 EB02

(54)【発明の名称】 発光ディスプレイパネル及びその製造方法

(57)【要約】

【目的】 耐久性に優れた電極引出し部を実現し、長寿命で表示品位が高く、安定な生産が可能な発光ディスプレイパネルを提供する。

【解決手段】 金属電極の端部に接続された電極引出し部を有し、電極引出し部は耐食性の高い耐食性金属部を有し、少なくとも耐食性金属部の表面の一部は封入缶の外部に露出している。また、金属電極は、なだらかな傾斜を有する絶縁体上に形成されて、かつ耐食性金属部のみに接続されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 基板上に、少なくとも複数の透明電極、発光層、複数の金属電極が積層され、前記透明電極と前記金属電極が交差する領域が発光領域となる発光ディスプレイパネルであって、前記基板上には、各々が前記複数の金属電極の端部に接続される複数の電極引出し部が形成され、前記電極引出し部は前記金属電極と比べて耐食性の高い高耐食性金属部を有することを特徴とする発光ディスプレイパネル。

【請求項2】 基板上に、少なくとも複数の透明電極、発光層、複数の金属電極が積層され、前記透明電極と前記金属電極が交差する発光領域を封入する封入手段を有する発光ディスプレイであって、前記基板上には、前記複数の金属電極の各端部に接続される複数の電極引出し部が形成され、前記電極引出し部は前記金属電極と比べて耐食性の高い高耐食性金属部を有し、少なくとも前記高耐食性金属部の一部は前記封入手段の外部に露出されていることを特徴とする発光ディスプレイパネル。

【請求項3】 前記金属電極は、前記電極引出し部に比べて電気抵抗率が低いことを特徴とする請求項1又は2記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項4】 前記金属電極は、アルミニウム(A1)、銅(Cu)及び金(Au)の少なくとも何れかを含み、前記電極引出し部はクロム(Cr)を含むことを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項5】 前記金属電極は、アルミニウム(A1)、銅(Cu)及び金(Au)の少なくとも何れかを含み、

前記電極引出し部は、ITO層(インジウム・スズ酸化物層)及び前記ITO層の上に形成されたクロム(Cr)層との2層構造からなることを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項6】 前記電極引出し部の接続側端部には、これを被覆する絶縁体層が形成され、前記金属電極は、前記絶縁体層上に乗り上げるように形成されるとともに、その端部が前記電極引出し部の前記絶縁体層に被覆されない部分に接続されることを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1に記載される発光ディスプレイパネル。

【請求項7】 前記電極引出し部の接続側端部には、これを被覆するとともに前記電極引出し部の一部分を露出するスルーホールを有する絶縁体層が形成され、前記金属電極は、前記絶縁体層上に乗り上げるように形成されるとともに、前記スルーホールを通じて前記電極引出し部と接続されることを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項8】 前記絶縁体層の前記金属電極が乗り上げる部分は、傾斜面であることを特徴とする請求項6又は7記載の発光ディスプレイパネル。

10

20

30

40

50

【請求項9】 前記金属電極は、蒸着法により形成されることを特徴とする請求項1ないし8のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項10】 前記発光層は、有機EL(エレクトロルミネッセンス)材料からなることを特徴とする請求項1ないし9のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネル。

【請求項11】 互いに対向する複数の透明電極及び複数の金属電極と、前記透明電極及び金属電極の間に形成される発光層と、を有し、前記透明電極と前記金属電極が交差する領域が発光領域となる発光ディスプレイパネルの製造方法であって、

基板上に、複数の前記透明電極を形成する透明電極形成ステップと、前記発光層を形成する発光層形成ステップと、前記金属電極を形成する金属電極形成ステップと、前記金属電極と比べて耐食性の高い高耐食性金属部を有し、各々が前記金属電極の端部に接続される複数の電極引出し部を形成する電極引出し部形成ステップを有し、前記電極引出し部形成ステップは前記金属電極形成ステップの前に実行されることを特徴とする発光ディスプレイパネルの製造方法。

【請求項12】 前記電極引出し部形成ステップは、前記透明電極と同材料からなる第1引出し部を形成する第1引出し部形成ステップと、前記第1引出し部上に前記高耐食性金属部からなる第2引出し部を形成する第2引出し部形成ステップと、を含むことを特徴とする請求項1記載の発光ディスプレイパネルの製造方法。

【請求項13】 前記第1引出し部形成ステップは前記透明電極形成ステップと並行して実行されることを特徴とする請求項12記載の発光ディスプレイパネルの製造方法。

【請求項14】 前記透明電極形成ステップと前記発光層形成ステップとの間に、前記透明電極の縁部を覆う絶縁層を形成する第1絶縁体層形成ステップを有し、前記電極引出し部形成ステップと前記金属電極形成ステップとの間に、前記電極引出し部の前記金属電極が接続される側の端部に第2絶縁体層を形成する第2絶縁層形成ステップを有することを特徴とする請求項1ないし13のいずれか1に記載の発光ディスプレイパネルの製造方法。

【請求項15】 前記第1絶縁層形成ステップ及び前記第2絶縁層形成ステップを並行して実行することを特徴とする請求項14記載の発光ディスプレイパネルの製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は発光ディスプレイパネル及びその製造方法、特に、表示装置として用いられる有機EL(エレクトロルミネッセンス)ディスプレイパネル及びその製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】有機EL（エレクトロルミネッセンス）素子は、電流注入型の素子であり、低駆動電圧化、低消費電流化には電極の低抵抗化が必須である。従来の有機ELディスプレイパネルの構造の1例を図1に示す。図1における有機ELディスプレイパネルは、ガラス基板3上に、透明導電体（ITO：インジウム・スズ酸化物）からなる複数の陽極5、有機EL（エレクトロルミネッセンス）材料からなる発光層7、及びAlなどの金属材料からなり陽極5に対向する複数の陰極9を順次形成して構成されている。また、陰極9の各々の端部には陰極引出し部11が、引出し接続部13において接続されている。発光層7（有機EL層）のうち、陽極5（透明電極）及び陰極9（金属電極）の交差する領域が発光領域となる。14は発光領域を封入する封止缶の接着領域である。

【0003】図1に示すような線順次駆動を行うドットマトリクスパネルの場合、特に大きな電流が流れる走査電極ラインの低抵抗化が重要である。この走査電極ラインとしては、ITO等から構成される抵抗の高い陽極ではなく、抵抗の低い陰極（Al等の金属電極）を選ぶのが一般的である。また、陰極引出し部も陰極同様に大電流が流れるため低抵抗化は重要である。以上のことから、陰極及び陰極引出し部は低抵抗の金属材料によって一体に形成されていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、陰極引出し部11の一部は外部の駆動回路との接続端子を兼ねるため、図1に示すように封止缶の封止領域からはずれ外部に露出している。そのため、外気にさらされることによる腐食や、装置の組み立て時等に損傷を受け断線する、といった問題があった。

【0005】本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、耐久性が高く寿命の長い発光ディスプレイパネルを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、基板上に、少なくとも複数の透明電極、発光層、複数の金属電極が積層され、前記透明電極と前記金属電極が交差する領域が発光領域となる発光ディスプレイパネルであって、前記基板上には、各々が前記複数の金属電極の端部に接続される複数の電極引出し部が形成され、前記電極引出し部は前記金属電極と比べて耐食性の高い高耐食性金属部を有することを特徴としている。

【0007】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施例を図面を参照しつつ詳細に説明する。図2は本発明の第1の実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示している。図1に示した従来技術と異なる点は、陰極引出し部11を金属電極9とは異なる材料で形成した点に

10

あり、陰極引出し部11はその一部が封止缶領域の外部に位置し、ドライブ回路への接続端子を兼用する。また、金属電極9はすべて封止缶領域内に封入される。他の構成は図1と同一である。図3は陰極引出し部11と金属電極9の断面構造を示している。図示されるように陰極引出し部11は、ガラス基板3上にITO層15及び耐食性に優れた高融点（高仕事関数）金属層16が順次積層された2層構造となっているが、高融点金属層の1層構造としても良い。また、金属電極9の端部は、高融点金属層16の端部の上面に乗り上げて形成されており、これにより、金属電極9と高融点金属層16の接続がなされている。

【0008】陰極引出し部11は、金属電極と同様に低抵抗であることが望ましい。また、封止領域外に位置するため耐環境性（腐食しにくいこと、傷付きにくいこと）に優れていることが望まれる。一方、金属電極9は外部より封止されているため低抵抗であれば良い。本発明ではこれらの条件を満たすように、陰極引出し部11を金属電極9とは異なる材料で形成する。

20

【0009】腐食しにくい材料とは一般に仕事関数の高い材料であり、傷付きにくく材料とは一般に融点が高い材料であるので、陰極引出し部11は、金属電極の材料に比べて高仕事関数で且つ高融点の材料により形成すればよい。例えば、金属電極を低抵抗で安価なAl、または、Mgで形成した場合は、陰極引出し部11は、Mo、Ni、W、Cr、Au、Pd、Ptの単体またはこれらを含む合金として形成すれば良い。これにより、陰極ラインの高抵抗化、高コスト化を極力抑えつつ、従来問題とされた耐久性の問題を解消することができる。

30

【0010】なお、ITOは高抵抗ではあるが、耐環境性においては格段に優れているので、図2に示したように、他の高融点金属との2層構造で用いるのが良い。また、陰極ラインの抵抗をできるだけ低くするためには、陰極引出し部11と金属電極9との接続部分（引出し接続部13）をできるだけ封止領域の端側にすることが望ましい。

40

【0011】図6及び図7は、本発明の第2の実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示している。図6は有機ELディスプレイパネルの上面図であり、図7(a)、(b)はそれぞれ、図6における引出し接続部13の上面図及び線A-Aに関する断面図である。この第2実施例は、第1実施例の欠点を改良した例であるので、第2実施例の説明の前に、第1実施例の欠点について図3～図5をもとに説明する。陰極ラインの低抵抗化を考えると、陰極引出し部11は金属電極9よりも厚くなり、図3に示すような段差構造となる。一方、陰極9は蒸着法により形成されるが、蒸着流の回り込みが小さい（ステップカバレッジが悪い）と段差部の陰極膜厚が薄くなる。従って、陰極-陰極引出し部の接続が不十分となり、最悪の場合断線するという問題があ

50

5
った。

【0012】更に、図4に示すように、基板内の位置によって陰極材料の蒸着流の方向が異なるため、陰極引出し部11の接続端部での陰極膜厚にばらつきが生じ、その結果、引出し接続部13の接続抵抗がばらついて表示品位を落とすという問題が生じていた。また、陰極引出し部11をITO層15及び高融点金属16の2層構造とした場合、陰極引出し部11のITO層15及び高融点金属16のパターンにずれがあると、接続部の端部において両者が接触し、局部電池の形成によって腐食が生じ、断線する危険性があった。

【0013】第2実施例においては、これら第1実施例の問題を解消し、より優れた発光ディスプレイとなっている。図6及び図7に示すように、この有機ELディスプレイパネルは、ガラス基板3上に、ITOからなる複数の透明電極(陽極)5、有機EL発光層7を成膜後、A1からなり陽極5に直交する複数の金属電極(陰極)9を蒸着法により形成して構成されている。また、透明電極5と発光層7との間には透明電極5の縁部にかかる絶縁層(図示していない)が形成されている。これによりクロストーク発光の防止がなされている。更に、陰極9の各々の端部には、ITO層15及び耐食性の金属(Cr)層16の2層構造を有する陰極引出し部11が形成されている。陰極引出し部11は絶縁体19を挟んで金属電極9に結合され、金属電極9は絶縁体19に乗り上げて形成されるとともに、その端部において金属(Cr)層16の上面のみに一部が接続されている。絶縁体19は、非感光性ポリイミド前駆体溶液をスピンドルして成膜され、金属電極9との接触面がなだらかな傾斜面となるように形成されている。これにより、引出し接続部13の金属電極9の膜厚は蒸着方向によらず均一化し、安定で低抵抗の接続部が形成される。

【0014】また、ITO層15と高融点金属層16にパターンずれがあつても、そのずれ部分は絶縁体19に覆われるため、局部電池の問題も解消される。上記した有機ELディスプレイパネルの製造工程において、陰極引出し部11は、金属電極9が形成される前に形成され、また、陰極引出し部11のITO層15は、透明電極(ITO)5と同一の工程で形成される。また、引出し接続部13の絶縁体19は、前述した透明電極5と発光層7との間の絶縁層と同一の工程で形成される。

【0015】発光層7(有機EL層)のうち、陽極5(透明電極)及び陰極9(金属電極)の交差する領域が発光領域となり、マトリクス状の発光部(表示部)を形成している。このようにして形成された有機EL発光素子は、陽極5及び陰極引出し部11の端部の一部を除いて封止缶により封止される。本発明による有機ELディスプレイパネルは上述した如く形成されており、耐食性金属部を含む陰極引出し部11を有し、更に、ITO層15及び金属層16の接触による局部電池の形成を避け

ことができるため、耐久性に優れた電極を実現できる。また、引出し接続部13の金属電極9は、なだらかな傾斜面の絶縁体19上に形成されるため、膜厚や接続抵抗のばらつきのない低抵抗の電極を形成することができる。

【0016】図8及び図9は、本発明の第3の実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示している。図8は有機ELディスプレイパネルの上面図であり、図9(a), (b)はそれぞれ、図8における引出し接続部13の上面図及び線A-Aに関する断面図である。図8及び図9に示すように、この有機ELディスプレイパネルが第1の実施例と異なるのは、引出し接続部13上の絶縁体19にスルーホール21を設けて金属部16に金属電極9が接続されるようにしている点である。このスルーホール21の形成により、あらゆる方向からの陰極金属の蒸着流に対して確実に接続を行うことができる。

【0017】上記したように、本発明によれば、耐久性に優れ、低抵抗の電極を有し、かつ安定な生産が可能な発光ディスプレイパネルを実現できる。尚、上記実施例においては、耐食性の金属としてCrを用いた場合について説明したが、他の耐食性金属、例えばモリブデン(Mo)、タンタル(Ta)、チタン(Ti)、ニッケル(Ni)等を用いる構成としてもよい。また、金属電極としてA1を用いた場合について説明したが、銅(Cu)、金(Au)等の金属を用いてもよい。

【0018】また、陰極引出し部11には、外部端子としてドライブ外部回路に接続するためにFPC、TABなどの接続ラインがACF(異方導電性フィルム)を介して圧着接続されるが、ACFは接続される外部端子との相性によって適宜選択されるため、陰極の引出し部を陰極引出し部11と同材料で形成すると、1種類のACFでこと足り、製造コストを低減させることができる。

【0019】また、上記実施例においては、有機ELディスプレイパネルを例に説明したが、他の発光材料を用いた発光ディスプレイパネル、又は他の発光原理を利用した発光ディスプレイパネルについても適用可能である。

【0020】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明によれば、耐久性に優れた電極引出し部を実現でき、長寿命で表示品位が高く、安定な生産が可能な発光ディスプレイパネルを実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】従来の有機ELディスプレイパネルの構造の1例を概略的に示す図である。

【図2】本発明の第1実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示す図である。

【図3】図2における従来の引出し接続部の構造を概略的に示す断面図である。

【図4】蒸着流の方向による接続端部での陰極膜厚のばらつきを説明する断面図である。

【図5】第1の実施例の2層構造の引出し接続部における接触腐食を説明する断面図である。

【図6】本発明の第2の実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示す上面図である。

【図7】図6における引出し接続部の上面図及び線A-Aに関する断面図である。

【図8】本発明の第3の実施例である有機ELディスプレイパネルの構成を概略的に示す上面図である。

【図9】図8における引出し接続部の上面図及び線A-Aに関する断面図である。

【主要部分の符号の説明】

3 ガラス基板

5 透明電極

7 発光層

9 金属電極

11 陰極引出し部

13 引出し接続部

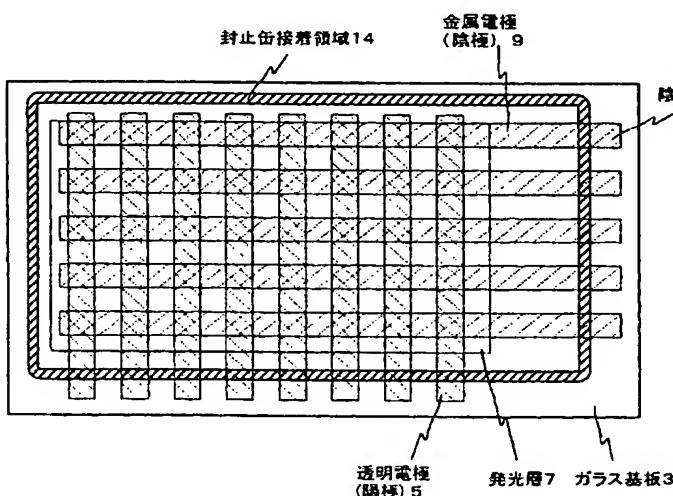
15 ITO層

16 高融点金属層

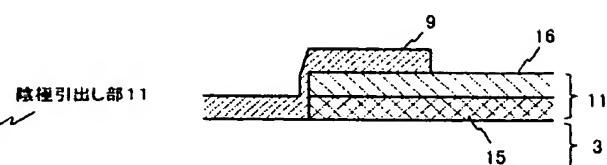
19 絶縁体

21 スルーホール

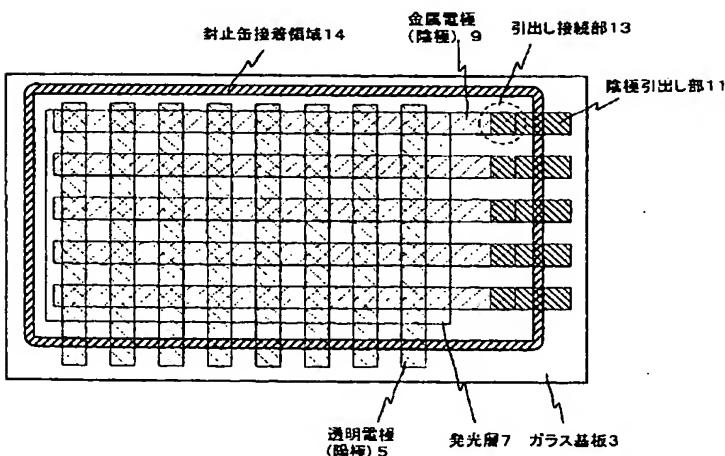
【図1】



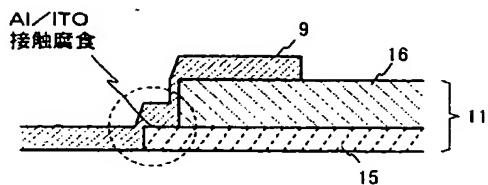
【図3】



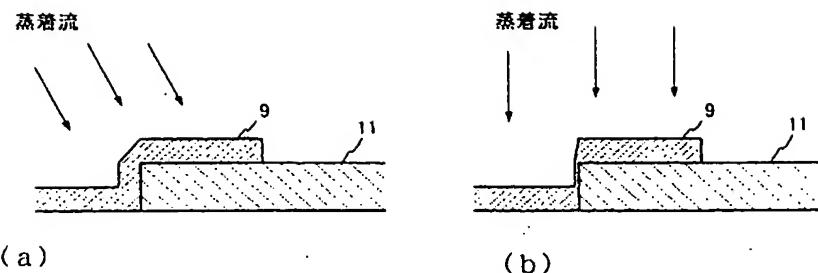
【図2】



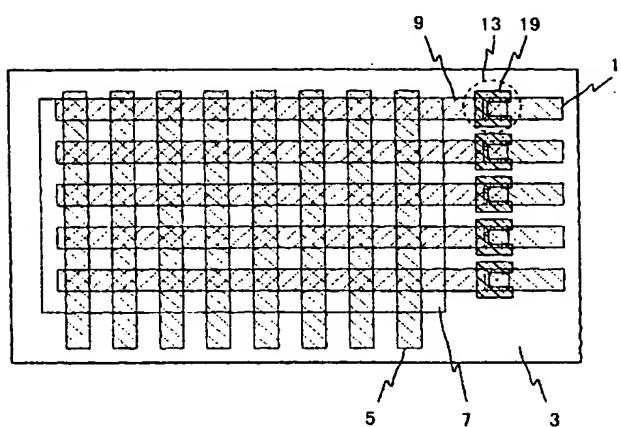
【図5】



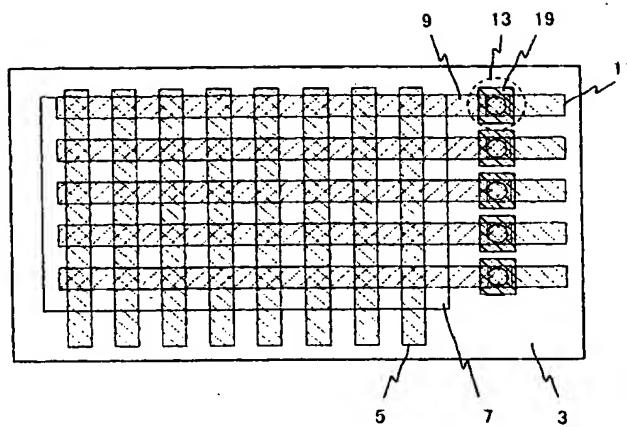
【図4】



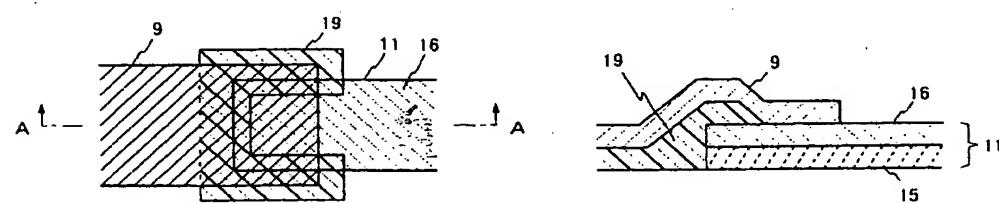
【図6】



【図8】



【図7】



【図9】

